

■このコーナーを担当したのは、

おしま くにみつ はすぬま
小島 邦光さん (蓮沼)

『愛の献血』で尊い命を救いましょう

輸血用の血液は献血でまかなわれています。筑西市では行政が中心になり、各企業や学校、行政機関で献血事業を行っています。また、市内にある各ライオンズクラブも行政に協力し、積極的に献血活動を推進して大きな成果をあげています。今回はその中の一つ、協和ライオンズクラブの献血活動取材しました。

協和ライオンズクラブの献血活動

筑西市における献血事業は、市保健福祉部の保健推進課と下館・関城・明野・協和の各保健センターが窓口となっていて行っています。協和地区では毎年4回、協和ライオンズクラブ（協和ライオンズクラブも協力）が中心になって献血活動が実施されています。

本年度最初の献血は、8月2日（水）に協和総合センターで実施されました。赤十字血液センターの献血車が2台配車されて、午前10時から午後3時30分まで、昼休みもなく採血が行われました。当日はライオンズクラブとライオネスクラブの会員24人が交代で、会場準備や記念品の用意、受付などを行いました。午後からは待ち時間ができるほどで、献血に協力してくれた人は104人、採血量は30・6リットルでした。保健センターでは、できるだけ多くの人たちに協力していただけるよう、広報筑西紙上での予告や協和地区全戸へのチラシ配布、そして当日は防災無線放送を午前と午後の2回行いました。また、ライオンズクラブもポスターの掲示や電話での

お誘いなどを行いました。

協和ライオンズクラブの久野衛会長と同クラブの須鎌祥行献血委員長は、「献血はクラブ結成以来28年間継続している事業です。中には260回も協力してくれた人もいて、赤十字血液センターからは大変感謝されています。昨年は1日当たりの献血者が市内で最も多く、記念品の赤玉卵も参加者に大変好評を得ています。実績が評価されたのでしよう。今回、赤十字社から献血功労賞をいただきました。また、以前には厚生大臣賞も受賞したことがあります」と語ってくれました。

献血は誰にでもできる社会奉仕

昨年度の献血事業は市全体で56回行われ、献血に協力してくれた人は延2,400人、その採血量は770リットルです。しかし、茨城県全体の献血者数は平成12年度以降減少しています。昨年度の献血者数は全国14位ですが、献血率（献血者数／人口）は全国平均42%に対し34%で44位。減少傾向は筑西市も同様で、しかも献血率は昨年度で

21%と県平均よりもかなり低いのです。献血された血液を血液製剤として医療機関に供給している茨城県赤十字血液センターの小林孝さんは、「医療機関からの要望の約半数が血小板製剤。血小板のみを採取する成分献血にもご協力をお願いします」と訴えています。

協和地区における今後の献血予定日は、10月25日（水）12月3日（日）、2月14日（水）、場所は協和総合センターです。より多くのみなさんのご協力をお願いいたします。

